

令和元年度 第 3 回全国健康保険協会大分支部評議会 議事録

開 催 日 : 令和元年 10 月 31 日(木) 10:00~11:20

場 所 : J:COM ホルトホール大分 セミナールーム L

出席評議員 : 安部評議員・阿部評議員・甲斐評議員・木本評議員・草野評議員・野崎評議員・
藤嶋評議員(五十音順)
評議員 9 名中 7 名出席

I 議 題

1. 令和 2 年度の保険料率について
2. 支部保険者機能強化予算について(第 3 回)

II 議 事 概 要(主な意見等)

議題 1. 令和 2 年度の保険料率について

＜事務局＞資料に基づき説明

〔学識経験者〕

法定準備金 3.8 か月分というのは、年間の給付費等に換算すると 4 分の 1 を超えている。以前から、どの程度の法定準備金をもつかは方針をもつべきだということは申し上げている。昨年度、『中長期で考える』という方針らしい方針も示されたが、曖昧に感じている。通常、「中期」といえば 3 年ないし 5 年であり、「長期」であれば 10 年で考える。年金は 5 年単位で計算することになっており、それがしかるべき期間ではないかと思う。先ほどの収支見通しの最も現実的なケースでも 5 年ではプラスになる。「中長期」という表現の中で 10 年を見通しており、0.6%の賃金上昇率の場合、最後の年に引き上げる可能性が出てくるという話になっているので、中期でみるか、長期でみるかで、ずいぶん見方が変わるため、この点は曖昧に感じている。5 年単位で見直すという年金方式でいいのではないか。その場合はマイナスの可能性があるという議論が出てくるが、本部が示しているデータは 10%維持を想定している。出ているデータは必ずしもそのことを示唆していないと感じる。そういう意味では 9.8%ぐらいで検討してもいいのではないか。

準備金残高が積み上がりすぎると、国庫補助を出す意味があるのかという議論にもなりかねない。そうなるとあまり大きな準備金をもつのは望ましくない。

インセンティブ制度もそうだが、今まで、支部も事業主・加入者も努力して保険者機能強化に取り組み、その効果が上がってきていると感じている。そのことをなんらかの形に示す必要があるのではないか。これまで努力した結果が、「維持」や「将来赤字」という話になれば、それにそいインセンティブが逆に働き、やっても無駄という感じになるのではないか。積極的に何%に引き下げろという話はしないが、積み上がった準備金の使い方を整理して、それをできるだけ保険料に反映させる方向で検討するという考え方もできるのではないかと思う。

〔被保険者代表〕

10 年の見通しでは、ほとんど下げるとい結論はないように思われる。中期(5年程度)で見て、一度検討するという考え方は賛成である。

働き方改革により、最低賃金も年々上昇しており、定年年齢を上げるという動きも高まっている。また、高齢者や被扶養者の社会進出が進み、社会保険の適用についての議論もある。そういった状況も踏まえると、10 年で見通すというのは難しいと思う。中期(5年程度)で見直しをするのがいいのではないかと考える。

準備金残高についても積み上がりすぎると、いろいろなところから補助をする必要があるのかという議論も出てきそうなので、この点も調整しながら進めていったほうがいいと思われる。

ただ、今後、少子高齢化が進むのは間違いないので、どこかで保険料率を上げなければならないというのは議論しなければならないと思う。

〔学識経験者〕

国庫補助や後期高齢者医療への支援金の負担等の問題等もあるので、保険料率そのものをどうするかという議論よりも、協会けんぽを取り巻く問題に対する考え方の整理が必要と思われる。現役世代の負担をできるだけ、少なくする方向で検討いただきたい。

〔学識経験者〕

全国健康保険協会という国を単位とした一つのシステムなので、都道府県単位で保険料率に差をつけるのが必ずしも望ましいわけではないと考えている。一方では、医療費の地域格差があるので、それをどのようにして全体として医療費を抑制していくかという考え方があるというのも理解している。激変緩和措置を解消期限どおりに終了させることについては、従来からの約束であるため仕方ないと思う。

議題2. 支部保険者機能強化予算について(第 3 回)

＜事務局＞資料に基づき説明

〔学識経験者〕

今までの継続事業に加え、新しい事業も多く含まれており、ぜひ進めていただきたいと個人的には思っている。

〔被保険者代表〕

「広報・意見発信」の中で「社会保険事務説明会の動画の支部ホームページへの掲載」という項目があるが、事務担当者としては、こういった取組は非常に助かる。説明会への出席はどうしても会社から1名程度となるため、出席した者がそれを社内に展開しなければならないが、非常に手間がかかるし、時間的にも余裕がない。動画の掲載により、出席できなかった担当者の都合がよい時

に、また複数の担当者が集まって内容の確認をするといったことも可能となる。

〔学識経験者〕

協会けんぽ単独で、できることは予算や人員も含めて限られている。このように色々な団体に働き掛けて一緒に取り組んでいくことが非常に大事だと思う。また、IoT など新しいものが出てきているので、果敢にチャレンジして行っていただきたい。

(以上)